共に、
ら、自
などし
県太郎）

の役割に期待

開く

求められる。
との意義をき

ちんと伝え、充実した人生に役立ててほしいとの思いからだ。

区版エンディングノートが企画されたのは、社会福祉職員が身寄りのない認知症の人と接する機会が増えてきたことが発端。その人らしい最期を送ってもらえるよう、どんな人生を送ってきたか書き残してもらおうと考えた。参考資料などを入れないシンプルさが喜ばれ、2012年に作成してすでに約4千部を配布した。

高齢者の権利擁護から始まったものだが、人生を振り返ることで生きがいが生まれ、第二の人生を踏み出す〝スターティングノート〟として活用されているという。

講座では「自分のことを自分で決める」といった生き方と共に、「大切な人に希望を伝える」ことを強調している。高齢・障害支援課の瀧澤朋之課長は「書くだけでなく、自分の思いを周りの人に伝えることが大事。それが互いに助け合う福祉環境にもつながる」と話す。

エンディングノートはさまざまな機関から出されている

証券会社の作ったノート――

財産管理ページ充実

SMBC日興証券が作ったノートは、財産管理のページが充実している。不動産、預貯金、保険、年金など、口座番号や金額の欄も用意した。だが重要なのは、書き方講座に参加してもらうことだという。

同社には、資産を家族に残したいが、どうしたらよいか分からないという問い合わせがよくある。来年に税制改正を控え、相続対策への関心は高い。そうした人が書き方講座に参加し、半生を振り返りながら担当者と相談していくと、おのずとふさわしい金融商品が見えてくるという。各支店で開く講座は好評で、夫婦や親子で参加する人も多い。

岡崎亨・保険ビジネス部部長は「大切な家族だからこそ、資産を減らさず相続させたいとの思いが強くなる。その人らしい資産の残し方には、家族への思いが表れる」と語り、相続を通じて次世代の顧客とつながりが生まれることにも期待する。

横浜市磯子区が開く書き方講座は毎回多くの区民でにぎわう

葬儀 介護

家族と話し合い

実際に何冊も記入したことがある武藤頼胡・終活カウンセラー協会代表理事は「エンディングノートの目的は書き上げることではなく、人生を考えること。葬儀や介護など今後のことを決めるにも、自分一人では決められないことが多く、家族との話し合いにつながる。親しい人との縁をつなぎ留める道具であり、今後もさまざまな形で活用されていくだろう」とみる。そして「例えば家族が集まるお正月に、ノートを広げてみんなで書いてみるのも楽しいのでは」と提案する。

木彫仏像・荘厳仏具
株式会社 巧芸社
本　社　〒171－0014 東京都豊島区池袋2－18－1
電話(03)3971－0128(代)
京都店　〒606－8345 京都市左京区古川町通仁王門下る
東門前町520－8　電話(075)761－0398

きょうの紙面から

▶ 教化研修会館具体化へ　30日から浄土宗定宗　＝3面
▶ いのちの復興―東日本大震災から3年半⑤　＝5面
▶〈読者のページ〉相談コーナー：「旧信徒の墓地、改葬」どうすれば？　＝8面
▶ 高野山開創1200年記念特集　＝12面
▶ グラフ特集「鎌倉の歴史と寺院を巡る」　＝21～28面

◆〈文化〉は休みました

中外日報購読のお申し込みは、フリーダイヤル0120―015―177へ